



# 安コシ★お宝さんぽみち



～地域にお住まいの安田勝寿さんのコレクションの中から、八戸ゆかりの逸品を紹介するコーナーです～



**ママレンジ** ままごと遊びに欠かせなかった女子垂涎のおもちゃ。1969（昭和44）年に、アサヒ玩具よりクッキングトイシリーズとして発売された。家庭用電源で実際にケーキなどを作ることができる。

女子のおもちゃを集めることに、いささか抵抗がある。子ども時代はもっぱらヒーロー物のビニール人形を集めており、女子のおもちゃには当然ながら目もくれなかった、今でも人形などを目の前にすると気恥ずかしいものがある。しかし、公共施設でおもちゃ展示会を開催するようにになると、女性の学芸員の方から「女子のおもちゃも飾ってあげたい」と要望されて、ハッと気が付いたのが現実。そこで、あまり気乗りはしなかったが、徐々にラインナップに加えるようになってきた経緯がある。

女子の遊びの代表と言えるのが「ままごと」ごっこではないだろうか。子どもたちは、少しだけ背伸びをして大人の真似ごとをしたがる。この遊びを通じて、大人社会を疑似体験して成長していくのではと、思うのだが…。



安田勝寿

経歴

- ・青森県立郷土館協議会委員
- ・八戸ペンクラブ理事

さらに、ままごと遊びと合わせて遊ばれたのが、同等の人気をほこる「着せ替え人形」である。古くは、昭和二十九年の小鳩くるみちゃんのカール人形、昭和三十四年生まれのバービー、などを懐かしむご年配の方も多いだろう。しかし、何といっても昭和四十二年にタカラより発売されたリカちゃん人形が一番の人気商品で、五頭身、サイズが二十一センチという要素が当時の女の子に受け入れられ、平成に入っても人気をほこっている。

当時の女子の多くは、片時も人形を離さず持ち歩いてきた記憶がある。風呂に入る時も、布団で寝る時も、いつも一緒だった。お出かけする際、バスケットに入れて持ち運んでいたほどである。女子にとって人形は、一つの精神的な支えだったのでないだろうか。

人形は家族であり、友だちであり、大きくなったらこうなりたいと思う、理想の自分に重ね合わせていたのかもしれない。ひるがえってデジタル全盛の現代であってもアナログの温かみを感じる人形などのおもちゃも、今一度見直してほしいものである。



## やり切りました 陸上記録会

九月七日（金）に東運動公園で、市内陸上記録会が行われました。この日のために、夏休み期間から練習を重ねてきた子どもたち。大会当日は、自分の限界に挑戦とばかりに、どの子もみんな一生懸命に取り組んでいました。また、選手が頑張っていることで応援団のみなさんも応援に力が入っていました。入賞した子どもたちはもちろんのこと、参加した子どもたち全員に心に残った記録会だったのでないでしょうか。

## 編集後記

☆☆☆

夏は記録的な猛暑でバタバタになり、涼しくなったと思ったら台風が振り回された十月、これほど天気が一喜一憂した年はありませんでした。さて、先日のお参観日で、大人っぽくなった六年生の姿に目を見張りました。ちょっと前まで黄色い帽子で走り回っていたのに、月日がたつのは早いものです。我が家にとって最後のバザーは、保護者の方々や子どもたちの頑張りで盛況に終わりましたが、小学校生活も残りわずか…子どもたちが、このメンバーで楽しく過ごし、思い出をたくさん作ってくださることを願っています。

(田中)

